

東白川村 美しい村づくり 委員会

第59回

○場 所：五加交流サロンほほえみ

○時 期：令和3年11月22日 19:00~21:00

○参加者：委員2名 一般2名 行政担当4名 ゲストスピーカー3名

○新型コロナ対策を実施して開催しました。(マスク、手消毒、体温チェック、常時換気)

第1 開会

美しい村づくり委員会は毎月1回、地域づくりについて対話を重ね、今回59回目を迎えました。

今年度の委員会は「学びあい」をテーマに活動しています。第1回は「茶産業振興施策について」、第2回は「SDGsと持続可能な地域づくり」、第3回は「地域のデザイン・地域の編集」、そして今回第4回は「関係人口」についてです。ゲストスピーカーは、NPO法人G-netの新井みなみさんと東白川村プロジェクトに参加した大学生の根岸さんと金古さんです。NPO法人G-netさんは、社会教育・まちづくりなどの事業に取り組んでおり、岐阜市を起点に地域産業の経営革新と、担い手となる右腕人材の育成に取り組み、地域活性を支える事業を輩出し続けています。

「ひとが起点となる、挑戦と変革のまちづくり」のNPO法人G-netさんの事業紹介と実際に東白川村プロジェクトに参加した大学生の報告をとおして、「持続可能な村づくり」を学び合いましょう。(ファシリ:村雲和裕)

第2 村長あいさつ

- 1 今回は「学びあい」第4回ということで、G-netさんにお話ししていただきます。G-netさん、お世話になりました。本日もよろしくお願い致します。先日、全国山村振興連盟の総会に出席しました。栃木県茂木町長

が講演され、共感したことがいくつかありました。「関係人口」「交流人口」「半農半X」「ふるさと回帰」などの言葉がありますが、これらは言葉であって、すぐに定住人口増加につながるというものではありません。地域の持続には、定住人口が重要で、地域には、世帯で住み続けることができる環境が必要で、その方針で村は移住定住施策に取り組んでいます。村に移り住む方が、事業を新しく起こし、経済的自立が可能となる仕組みづくりができれば、日本の7割ほどの山村でも暮らしていけます。そのために、森林環境税を全て山村活用していくべきだと講演会では盛り上がりました。事業を新しく起こし、経済的自立が可能となる仕組みづくりが今後の政策課題です。

村の将来像である、小さいながらも、人がいきいきとかがやいて活躍してこそ、わたしたちのむらに、地域力が生まれることを村民の方へしっかり示していかななくてはならないと考えています。

そうした定住人口施策に高野君ががんばってくれています。そんな中、YouTuberの方が村に移住されました。東白川村移住動画がいくつかアップされていて、再生数はとても多いです。YouTubeから、大変多くの方に東白川村を知ってもらえることは、とても嬉しい今朝のニュースでした。

第3 第4回学びあい会「関係人口」

1 事業紹介

紹介者：NPO 法人 G-net

スタッフ：新井みなみさん

村担当者：樋口（総務課企画財政係）

大学生：根岸さん（拓殖大学4年）

金古さん（中央大学2年）

2 紹介内容

NPO 法人 G-net

（1）自己紹介

- ・ NPO 法人 G-net の理念に共感し応募しスタッフに。
- ・ 白川町特定地域づくり事業共同組合準備室に所属。
(全国 22 自治体)

(2) 事業の種類と説明

- ・ 創業 20 周年。NPO 法人として地域活性化に寄与。
- ・ 事務所にコワーキングスペースを併設。
- ・ 長期インターンシップ等の人材紹介業。
- ・ 採用支援、兼業副業のマッチングプラットフォーム運営。
- ・ 地域に意欲ある若者を！企業に若者を受け入れる土壌を。
- ・ 全国 24 のパートナー団体。
- ・ トヨタ自動車と提携し、トヨタの社員をプロボノ[※]として地域の事業所へ派遣している。地域事業所では一貫した働き方を学ぶ。

(事例：鬼瓦製作所)

- ・ 学生版ふるさと兼業について。
- ・ 学生が企業と仕事として係わることに意義がある。
- ・ 飛騨市のふるさと兼業の事例紹介。
 - ・ 電子マネー「さるぼぼコイン」
 - ・ お米の販路拡大。
 - ・ 求人シートを丁寧に作成することで、理念や想いに共感し応募することができる。
- ・ 長野県東御（とうみ）市のプロボノ事例紹介。
 - ・ 市運営のオンラインショップのマーケティングと改革。
 - ・ 東御市ファンクラブについて。
- ・ 東白川村学生版ふるさと兼業について。

※専門家が社会貢献するボランティア活動

(3) 質疑応答

(Q1) ふるさと兼業の報酬と働く時間は？

(A1) 通常オンラインで、報酬の相場は3万円です。働く時間は、週1・

2回のミーティングと月に20時間ほどです。また、タスクによって働く時間は様々です。Slack[※]を使って頻繁にコミュニケーションをとっています。

※チームとコミュニケーションを図るためのアプリケーションソフト
(Q2) ふるさと兼業の認知度はいつ広がりましたか。また、広がるきっかけは？

(A2) 新型コロナがきっかけで、オンライン環境が普及したことです。兼業者へのPRをしなくても問合せは増えています。

(O1) 関係人口から定住人口へ発展するところも考えたい。担い手確保と仕事を新たに作り出す難しさがあります。特定地域づくり事業でもそうですが、ニーズが集中し仕事のマッチングが難しい。いっぽう、村では、森林環境税を活用し林業・建築業の新規就業者10名という実績があります。また、トマトの新規就業者もあるなか、茶業はとても厳しい状況です。お米については、今年度の価格が下がり、ふるさと納税でも価格競争で厳しい状況です。(村長)

(Q3) 他の自治体では課題の洗い出しはどうしていますか。

(A3) G-netと一緒に考えています。また、第三者団体が関与しているケースもあります。

(4) 担当者からの説明

5W2Hで事業説明を行いました。

(5) 学生によるプロジェクト報告

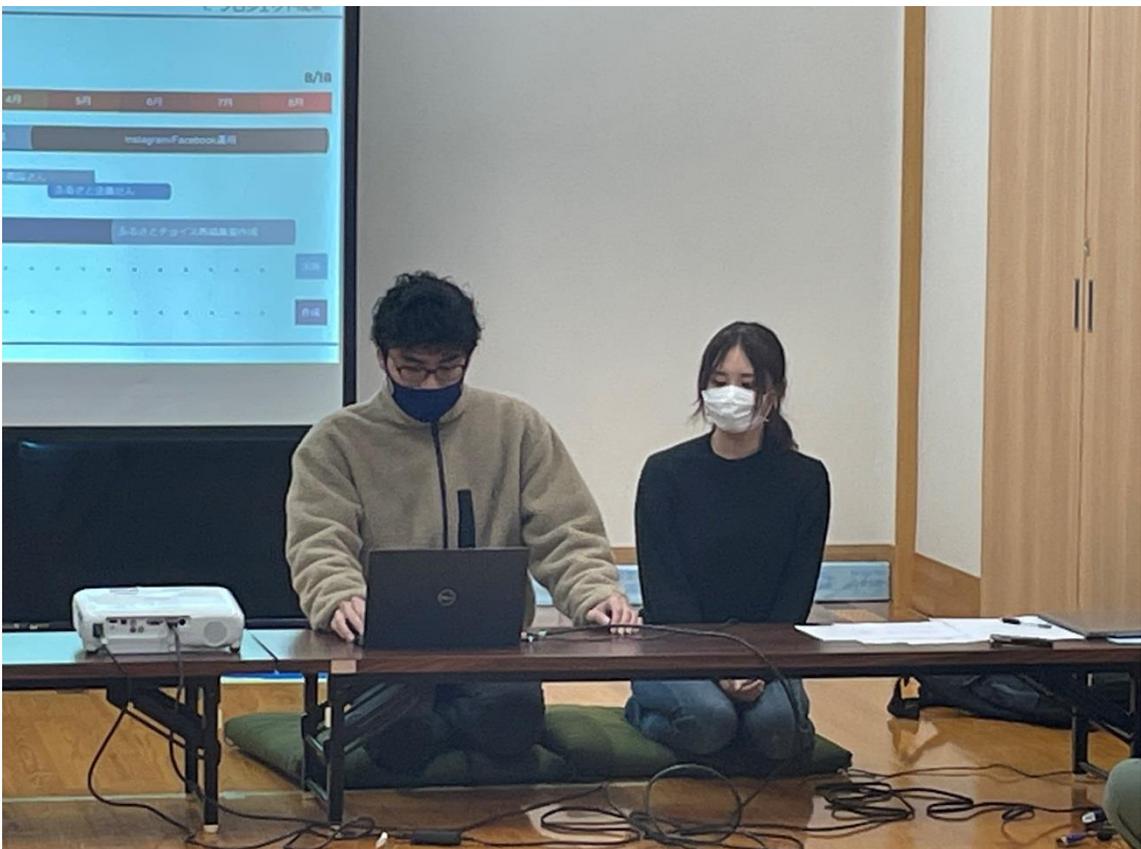
プロジェクト取組み紹介と新たな企画3点のプレゼンを行いました。学生は、本プロジェクトをとおして、東白川村が第2のふるさととなり、ひきつづき村と関係していきたいと発表しました。とくに、村特産品の販促活動を行いたいとのことでした。

第4 閉会

【次回】 12月23日 19時から21時

場所 (五加交流サロンほほえみ)

テーマ「私の近況報告」





以上